

[花き部門]

1. ブルーレースフラワーの効率的採種方法

[要約]

ブルーレースフラワーの自家採種は、11月に播種することで充実した種子を多く採種できる。また、開花後追肥を行うことで、充実種子数が増加する。

[担当] 野菜・花研究室

[連絡先] 電話086-955-0277

[分類] 情報

[背景・ねらい]

ブルーレースフラワーの自家採取種子は、発芽率が低いことが問題となっている。そこで、切り花栽培において、効率良く発芽の良い種子を得られる播種時期、追肥方法の確立を目指す。

[成果の内容・特徴]

- 1．11月播種の切り花栽培（加温開始温度10℃、電照により22時～2時の暗期中断）で自家採種すると、発芽の良い充実した種子を多く採種できる（表1）。
- 2．1月播種作型では、開花後追肥を行うことで、充実種子数が増加する（表2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．採取後の種子は、網目2mmの篩で予備選別し、その後無水エタノールに浸漬、攪拌し3分静置後沈殿した種子を使用する。エタノール浸漬処理後は、充分水洗する。
- 2．採種時期の目安は、花柄が茶色く枯れた時期とする。
- 3．品種は岡山県育成系統「SAB-イ」を使用した。

[具体的データ]

表 1 播種時期が種子量に及ぼす影響

播種時期	平均 ^z 開花日	最終種子 ^y 採取日	種子採取時 花数/株 (個)	篩選別 種子数/株 (粒) (A)	エタノール浸漬 ^x 処理残存率 (%) (B)	充実 種子数 (粒) (A) × (B) / 100	充実種子 ^w 発芽率 (%)
1 月	6月26日	10月14日	70	164	45	73.6	45
2 月	7月5日	11月29日	34	28	33	8.7	36
3 月	7月17日	12月24日	40	77	33	26.9	49
4 月	8月11日	1月30日	50	84	55	46.8	71
5 月	9月13日	4月25日	108	145	63	84.8	45
7 月	2月12日	7月21日	154	95	11	10.5	22
9 月	4月26日	8月2日	196	468	50	239.5	63
11月	5月27日	8月15日	175	827	44	363.6	63

^z第 2 小花開花日

^y小花の花柄が完全に枯れた際に採取

^x篩選別した種子50粒をエタノール浸漬処理し、沈殿した種子量から算出

^w播種21日後の発芽率

表 2 1 月播種における開花後の追肥が採種量に及ぼす影響

追肥量 ^z (窒素量 / m ²)	平均 ^y 開花日	種子採取時 ^x 花数 / 株 (個)	篩選別 種子数 / 株 (粒) (A)	エタノール浸漬 ^w 処理残存率 (%) (B)	充実 種子数 (粒) (A) × (B) / 100
	ns ^v	ns	* ^v	** ^v	*
1200mg	6月27日	60	298 a	92 a	274 a
600mg	6月26日	71	156 b	93 a	145 b
無	6月25日	76	184 b	41 b	75 c

^z第 2 小花開花日

^y7 月 8 日から液肥を週 1 回、3 回施用 (窒素1200mg / m²では、くみあい液肥 2 号500倍を 2 l / m² / 回施用)

^x種子採取は10月中旬

^w篩選別した種子50粒をエタノール浸漬処理し、沈殿した種子量から算出

^v** : 1 %水準で有意 * : 5 %水準で有意 ns : 有意差なし (分散分析)
同一英文字間に有意差なし (Tukey-Kramer法)

[その他]

研究課題名：ブランド化を目指した特産花きの品種選抜と栽培法の改善

予算区分：県単

研究期間：2008～2010年度

研究担当者：藤本拓郎、中島拓

関連情報：平成22年度試験研究主要成果、57-58